

## 平成 27 年愛媛県感染症発生動向調査事業

### 細菌科 ウイルス科 疫学情報科

愛媛県感染症発生動向調査事業要綱(平成 13 年 1 月 1 日施行)に基づき、一類から五類感染症及び新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、疑似症の 114 疾患(全数把握対象 86 疾患、定点把握対象 28 疾患)について発生動向調査を実施している。このうち定点把握対象疾患については、86 患者定点から患者情報を収集し、20 病原体定点から病原体情報を収集している。

当所は「愛媛県基幹地方感染症情報センター」として、病原体を含めた県内全域の感染症に関する情報の収集・分析を行い、その結果は「愛媛県感染症情報」及び「愛媛県感染症情報センターホームページ(<http://www.pref.ehime.jp/h25115/kanjyo/>)」等により、迅速に還元・公開している。

#### 1 患者発生状況

##### (1) 全数把握対象疾患

〔感染地域、感染経路については、確定あるいは推定として届出票に記載されたものを示す。〕

##### ア 一類感染症(7 疾患)

患者報告はなかった。

##### イ 二類感染症(7 疾患)

1 疾患、結核は 203 人の届出があり、患者 162 人、無症状病原体保有者 39 人、感染症死亡者 1 人、感染症死亡疑い者 1 人であった。性別は男性 104 人、女性 99 人で、年齢は 10 歳未満 8 人、10 歳代 2 人、20 歳代 6 人、30 歳代 10 人、40 歳代 15 人、50 歳代 20 人、60 歳代 20 人、70 歳代 37 人、80 歳以上 85 人であった。なお詳細については、「結核登録者情報システム」のデータを基に、別項に掲載した((3)結核 参照)。

##### ウ 三類感染症(5 疾患)

2 疾患 11 人の届出があった。

細菌性赤痢は 1 事例 1 人(患者)の届出があった(表 1)。30 歳代男性で、感染地域は国外、感染経路は経口感染であった。

腸管出血性大腸菌感染症は 6 事例 10 人(患者 6 人、無症状病原体保有者 4 人)の届出があった(表 2)。性別は、男性 4 人、女性 6 人で、年齢は 10 歳未満 5 人、10 歳代 1 人、20 歳代 2 人、30 歳代 1 人、50 歳代 1 人であった。血清型は O157 が 5 人、O26 が 3 人、O145 が 2 人であった。感染地域はすべて国内(うち県内 8 人)で、感染経路は、経口感染が 2 人、不明が 8 人であった。

表 1 細菌性赤痢届出事例

事例番号	診断日	届出保健所	感染地域	感染経路	菌型
1	8 月 14 日	松山市	国外(インド)	経口感染	ソッネ

表 2 腸管出血性大腸菌感染症届出事例

事例番号	診断日	届出保健所	血清型	ベロ毒素	患者・感染者数
1	5 月 16 日	宇和島	O26	VT1	1
	5 月 25 日	宇和島	O26	VT1	1
2	6 月 17 日	中予	O157	毒素型不明	1
	7 月 10 日	今治	O157	VT1, VT2	1
3	7 月 12 日	今治	O157	VT1, VT2	1
	7 月 12 日	今治	O157	VT1, VT2	1
4	7 月 18 日	宇和島	O157	VT1, VT2	1
	10 月 18 日	今治	O145	VT	1
5	10 月 23 日	今治	O145	VT2	1
	12 月 1 日	宇和島	O26	VT1	1
合 計					10

## エ 四類感染症(43 疾患)

7 疾患, 40 人の届出があった(表 3).

E 型肝炎は 3 人の届出があり, 性別は男性 2 人, 女性 1 人で, 年齢は 60 歳代 2 人, 70 歳代 1 人であった. 感染地域はすべて県内で, 感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染が 1 人, その他が 1 人, 不明が 1 人であった.

A 型肝炎は 4 人の届出があり, 性別は男性 3 人, 女性 1 人で, 年齢は 40 歳代 1 人, 60 歳代 2 人, 70 歳代 1 人であった. 感染地域はすべて県内で, 感染経路はすべて経口感染であった.

重症熱性血小板減少症候群は 50 歳代男性 1 人の届出があり, 感染地域は県内で, マダニ類による刺し口が確認された.

デング熱は 30 歳代女性 1 人の届出があり, 病型はデング熱で, 感染地域は国外であった.

日本紅斑熱は 14 人の届出があり, 性別は男性 7 人, 女性 7 人で, 年齢は 20 歳代 1 人, 50 歳代 2 人, 60 歳代 4 人, 70 歳代 6 人, 80 歳代 1 人であった. 感染地域はすべて県内で, 14 人中 11 人にマダニ類による刺し口が確認された.

マラリア症は 10 歳代男性 1 人の届出があり, 病型は不明で, 感染地域は国外, 感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった.

レジオネラ症は 16 人の届出があり, 病型はすべて肺炎型であった. 性別は男性 12 人, 女性 4 人で, 年齢は 30 歳代 1 人, 40 歳代 1 人, 50 歳代 3 人, 70 歳代 5 人, 80 歳代 4 人, 90 歳代 2 人であった. 感染地域は県内 15 人, 国外 1 人であった. 感染経路は水系感染が 6 人, 塵埃感染が 1 人, その他が 1 人, 不明が 8 人であった.

表 3 四類感染症事例

疾患名	届出数
E 型肝炎	3
A 型肝炎	4
重症熱性血小板減少症候群	1
デング熱	1
日本紅斑熱	14
マラリア症	1
レジオネラ症	16
合計	40

## オ 五類感染症(22 疾患)

14 疾患, 71 人の届出があった(表 4).

アメーバ赤痢は 8 人の届出があり, 病型はすべて腸管アメーバ症であった. 性別は男性 7 人, 女性 1 人で, 年齢

は 30 歳代 1 人, 40 歳代 2 人, 50 歳代 3 人, 60 歳代 2 人であった. 感染地域は県内が 7 人, 国外が 1 人で, 感染経路は性的接触が 1 人, 経口感染が 1 人, 不明が 6 人であった.

ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く)は 3 人の届出があり, 病型は B 型が 2 人, その他(EB ウイルス)が 1 人であった. 性別は男性 2 人, 女性 1 人で, 年齢は 10 歳代, 20 歳代, 50 歳代が各 1 人であった. 感染地域はすべて県内で, 感染経路は性的接触が 2 人, 不明が 1 人であった.

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は 10 人の届出があった. 性別は男性 5 人, 女性 5 人で, 年齢は 40 歳代 1 人, 60 歳代 3 人, 70 歳代 3 人, 80 歳代 2 人, 90 歳代 1 人であった. 感染地域はすべて県内で, 感染経路は以前からの保菌が 4 人, 手術部位感染が 2 人, 医療器具関連感染, 以前からの保菌及び医療器具関連感染, その他, 不明が各 1 人であった.

急性脳炎は 3 人の届出があった. 性別はすべて男性で, 年齢は 10 歳未満 2 人, 10 歳代 1 人であった. 感染地域はすべて県内で, 感染経路は接触感染が 1 人, 不明が 2 人であった.

クロイツフェルト・ヤコブ病は 4 人の届出があった. 病型はすべて孤発性で, 診断の確実度は, ほぼ確実例が 3 人, 疑い例が 1 人であった. 性別はすべて男性で, 年齢は 60 歳代 1 人, 70 歳代 2 人, 80 歳代 1 人であった.

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 12 人の届出があった. 性別は男性 7 人, 女性 5 人で, 年齢は 30 歳代 1 人, 60 歳代 2 人, 70 歳代 5 人, 80 歳代 4 人であった. 感染地域はすべて国内(うち県内 11 人)で, 感染経路は創傷感染が 2 人, その他が 1 人, 不明が 9 人であった.

後天性免疫不全症候群は 9 人の届出があり, 病型は無症候性キャリアが 5 人, AIDS が 4 人であった. 性別はすべて男性で, 年齢は 30 歳代 4 人(無症候性キャリア), 40 歳代 5 人(AIDS 4 人, 無症候性キャリア 1 人)であった. 感染地域は国内が 8 人, 国外が 1 人で, 感染経路は同性間性的接触が 6 人, 異性間性的接触が 2 人, 不明が 1 人であった.

侵襲性インフルエンザ感染症は 10 歳未満男性 1 人の届出があった. 感染地域は県内で, 感染経路は飛沫・飛沫核感染であった.

侵襲性肺炎球菌感染症は 10 人の届出があった. 性別は男性 6 人, 女性 4 人で, 年齢は 40 歳代 1 人, 50 歳代 1 人, 60 歳代 2 人, 70 歳代 4 人, 80 歳代 1 人, 90 歳代 1 人であった. 感染地域はすべて国内(うち県内 8 人)で, 感染

経路は飛沫・飛沫核感染が2人、不明が8人であった。

水痘(入院例)は10歳代男性1人の届出があった。感染地域は県内で、感染経路は不明であった。

梅毒は6人の届出があった。性別は男性5人、女性1人で、年齢は20歳代1人、30歳代2人、50歳代1人、60歳代1人、80歳代1人であった。病型は無症候3人、早期顕症梅毒2人(I期1人、II期1人)、晚期顕症梅毒1人で、感染地域はすべて国内(うち県内4人)で、感染経路は性的接触が4人、不明が2人であった。

播種性クリプトコックス症は60歳代女性1人の届出があった。感染地域は県内で、感染原因・感染経路は免疫不全であった。

破傷風は60歳代男性及び50歳代女性の2人の届出があった。感染地域はいずれも県内で、感染経路は創傷感染が1人、針等の鋭利なものの刺入による感染・創傷感染が1人であった。

風しんは60歳代女性1人の届出があった。感染地域は県内で、感染経路は不明であった。

インフルエンザの報告数は14,845人(定点当たり243.4人)で、過去5年の平均(以下、例年とする)の1.0倍であった。1月上旬から増加し、1月中旬に流行のピークに達した後、5月上旬に終息した。

RSウイルス感染症の報告数は2,209人(定点当たり59.7人)で例年の1.5倍であった。9月中旬から増加し、12月中旬にピークに達した。西条保健所、今治保健所で報告数が多かった。

咽頭結膜熱の報告数は421人(定点当たり11.4人)で例年の0.7倍であった。年初から県内各地で散発したが、目立った流行ピークがないまま低レベルで推移した。今治保健所では4月中旬から8月下旬と11月中旬から12月下旬にかけて報告数が増加した。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は6,051人(定点当たり163.5人)で例年の2.1倍であった。5月中旬から7月上旬、11月中旬から12月下旬に報告数が多く、特に中予保健所で多発した。

感染性胃腸炎の報告数は16,172人(定点当たり437.1人)で例年の0.9倍であった。1月上旬から3月中旬、6月、12月に患者数が増加したものの大きな流行とならず、例年と同程度の流行規模となった。

水痘の報告数は657人(定点当たり17.8人)で例年の0.2倍であった。年間を通して報告数が少なく、1999年以降最も少ない発生規模であった。

手足口病の報告数は3,236人(定点当たり87.5人)で例年の1.0倍であった。6月中旬から増加が始まり、10月下旬まで流行が続いた。

伝染性紅斑の報告数は457人(定点当たり12.4人)で例年の1.1倍であった。年間を通じて患者発生がみられ、特に、10月下旬から中予保健所で増加が始まり、11月中旬には今治保健所、松山市保健所でも増加した。本疾患は、4、5年おきに流行期を迎えており、本年は流行期であると考えられた。

突発性発疹の報告数は1,324人(定点当たり35.8人)で例年の0.9倍であった。例年と同様に、年間を通じて報告数に大きな変動はなかった。

百日咳の報告数は21人(定点当たり0.6人)で例年の0.9倍であった。年間を通じて低レベルで推移し、西条保健所からの報告が約半数を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は2,353人(定点当たり63.6人)で例年の1.7倍であった。6月中旬に増加し始め、7月上旬にピークを迎えた。

流行性耳下腺炎の報告数は734人(定点当たり19.8人)で例年の0.5倍であった。過去10年間では、小規模な発

表4 五類感染症事例

疾患名	届出数
アメーバ赤痢	8
ウイルス性肝炎	3
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	10
急性脳炎	3
クロイツフェルト・ヤコブ病	4
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	12
後天性免疫不全症候群	9
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1
侵襲性肺炎球菌感染症	10
水痘(入院例)	1
梅毒	6
播種性クリプトコックス症	1
破傷風	2
風しん	1
合計	71

#### カ 新型インフルエンザ等感染症(2疾患)

患者報告はなかった。

#### (2) 定点把握対象疾患

##### ア 週報対象疾患(19疾患)

定点からの週別患者報告数を表5に示した。

生となった。

急性出血性結膜炎の報告数は2人(定点当たり0.3人)で例年の0.3倍であった。

流行性角結膜炎の報告数は709人(定点当たり88.6人)で例年の1.1倍であった。1月上旬から3月上旬と10月中旬から12月上旬に報告数が増加したものの、目立った流行ピークがないまま推移した。年間を通じ今治保健所と八幡浜保健所で報告数が多かった。

ロタウイルス胃腸炎の報告数は17人(定点あたり2.8人)であった。1月下旬から7月上旬にかけて今治保健所、宇和島保健所で発生がみられた。

細菌性髄膜炎の報告数は3人(定点当たり0.5人)で例年の1.5倍であった。病原体は、肺炎レンサ球菌、リステリア菌、B群溶血性レンサ球菌が各1人であった。

無菌性髄膜炎の報告数は3人(定点当たり0.5人)で例年の0.3倍であった。病原体は、結核菌が1人、不明が2人であった。

マイコプラズマ肺炎の報告数は45人(定点当たり7.5人)で例年の0.2倍であった。八幡浜保健所からの報告が最も多かった。

クラミジア肺炎の報告はなかった。

表5 定点把握五類感染症 週別患者報告数

疾患 \ 週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
インフルエンザ (定点当たり)	1,373	2,173	2,331	2,235	1,640	1,266	762	568	429	375	354	301	202	138	85	102	100	79	38	42	39	36	26	4	4		2
	22.5	35.6	38.2	36.6	26.9	20.8	12.5	9.3	7.0	6.1	5.8	4.9	3.3	2.3	1.4	1.7	1.6	1.3	0.6	0.7	0.6	0.6	0.4	0.1	0.1		0.0
RSウイルス感染症 (定点当たり)	43	55	35	54	56	50	43	47	45	32	33	26	29	11	17	27	14	9	2	2	3	5	4	3	4	1	
	1.2	1.5	0.9	1.5	1.5	1.4	1.2	1.3	1.2	0.9	0.9	0.7	0.8	0.3	0.5	0.7	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0
咽頭結膜熱 (定点当たり)	6	11	2	1	6	8	3	7	4	2	3	9	2	4	5	10	8	15	10	7	5	11	8	11	9	18	15
	0.2	0.3	0.1	0.0	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.4	0.3	0.2	0.1	0.3	0.2	0.3	0.2	0.5	0.4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (定点当たり)	36	99	84	115	107	74	96	105	135	125	105	114	109	69	68	125	128	107	84	174	180	219	164	223	193	141	163
	1.0	2.7	2.3	3.1	2.9	2.0	2.6	2.8	3.6	3.4	2.8	3.1	2.9	1.9	1.8	3.4	3.5	2.9	2.3	4.7	4.9	5.9	4.4	6.0	5.2	3.8	4.4
感染性胃腸炎 (定点当たり)	231	415	383	457	368	454	364	406	398	414	448	364	283	255	239	285	286	289	173	285	316	357	353	480	396	409	340
	6.2	11.2	10.4	12.4	9.9	12.3	9.8	11.0	10.8	11.2	12.1	9.8	7.6	6.9	6.5	7.7	7.7	7.8	4.7	7.7	8.5	9.6	9.5	13.0	10.7	11.1	9.2
水痘 (定点当たり)	31	28	12	12	12	12	9	16	8	19	9	10	9	18	7	11	8	11	6	16	6	15	12	12	10	20	12
	0.8	0.8	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.4	0.2	0.5	0.2	0.3	0.2	0.5	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2	0.4	0.2	0.4	0.3	0.3	0.3	0.5	0.3
手足口病 (定点当たり)	20	23	9	18	15	7	4	1	6	14	13	6	5	7	7	10	4	8	8	16	41	61	48	74	82	124	127
	0.5	0.6	0.2	0.5	0.4	0.2	0.1	0.0	0.2	0.4	0.4	0.2	0.1	0.2	0.2	0.3	0.1	0.2	0.2	0.4	1.1	1.6	1.3	2.0	2.2	3.4	3.4
伝染性紅斑 (定点当たり)	2	1	2	3		1		1	5	3	2	1	2	3	2	4	6	2	4	4	4	13	5	6	6	18	10
	0.1	0.0	0.1	0.1		0.0		0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	0.1	0.2	0.2	0.5	0.3
突発性発疹 (定点当たり)	10	21	18	23	12	17	26	18	22	17	27	17	21	24	31	27	23	27	19	31	40	24	35	40	32	32	31
	0.3	0.6	0.5	0.6	0.3	0.5	0.7	0.5	0.6	0.5	0.7	0.5	0.6	0.6	0.8	0.7	0.6	0.7	0.5	0.8	1.1	0.6	0.9	1.1	0.9	0.9	0.8
百日咳 (定点当たり)	1																					1	1	1	2	1	
	0.0																					0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0
ヘルパンギーナ (定点当たり)	1			1	1	2	2	1	6	2	3	3	3	4	10	5	17	15	18	32	59	49	50	100	179	236	231
	0.0			0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.1	0.5	0.4	0.5	0.9	1.6	1.3	1.4	2.7	4.8	6.4	6.2
流行性耳下腺炎 (定点当たり)	4	35	12	7	14	12	10	22	10	20	19	11	22	8	6	19	7	14	10	7	15	15	13	9	12	11	10
	0.1	0.9	0.3	0.2	0.4	0.3	0.3	0.6	0.3	0.5	0.5	0.3	0.6	0.2	0.2	0.5	0.2	0.4	0.3	0.2	0.4	0.4	0.4	0.2	0.3	0.3	0.3

疾患 \ 週	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	合計
インフルエンザ (定点当たり)		5	4	2		1	1		6	14	14	2		2	2	3	3	5	4	5	5	2	16	9	16	20	14,845
		0.1	0.1	0.0		0.0	0.0		0.1	0.2	0.2	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.3	0.1	0.3	0.3	243.4
RSウイルス感染症 (定点当たり)		1	2	2	2	2	4	8	11	41	39	24	32	46	39	44	34	45	67	110	142	173	189	228	167	107	2,209
		0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	1.1	1.1	0.6	0.9	1.2	1.1	1.2	0.9	1.2	1.8	3.0	3.8	4.7	5.1	6.2	4.5	2.9	59.7
咽頭結膜熱 (定点当たり)	9	11	11	14	9	14	10	10	5	2	5	2	2	3	5	1	2	9	5	11	7	12	18	22	11	11	421
	0.2	0.3	0.3	0.4	0.2	0.4	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.2	0.1	0.3	0.2	0.3	0.5	0.6	0.3	0.3	11.4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (定点当たり)	127	117	78	78	86	46	53	74	77	79	93	30	95	98	88	122	127	138	129	163	109	150	172	149	155	76	6,051
	3.4	3.2	2.1	2.1	2.3	1.2	1.4	2.0	2.1	2.1	2.5	0.8	2.6	2.6	2.4	3.3	3.4	3.7	3.5	4.4	2.9	4.1	4.6	4.0	4.2	2.1	163.5
感染性胃腸炎 (定点当たり)	366	286	203	196	215	180	181	171	176	147	135	95	165	139	131	180	175	209	289	292	302	410	545	642	615	279	16,172
	9.9	7.7	5.5	5.3	5.8	4.9	4.9	4.6	4.8	4.0	3.6	2.6	4.5	3.8	3.5	4.9	4.7	5.6	7.8	7.9	8.2	11.1	14.7	17.4	16.6	7.5	437.1
水痘 (定点当たり)	15	16	18	6	22	8	25	10	5	9	5	7	10	6	6	8	11	4	11	13	13	10	14	20	17	17	657
	0.4	0.4	0.5	0.2	0.6	0.2	0.7	0.3	0.1	0.2	0.1	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	0.1	0.3	0.4	0.4	0.3	0.4	0.5	0.5	0.5	17.8
手足口病 (定点当たり)	124	159	158	186	180	142	120	173	176	157	183	141	123	132	83	75	52	44	14	21	14	4	9	5	3	3,236	
	3.4	4.3	4.3	5.0	4.9	3.8	3.2	4.7	4.8	4.2	4.9	3.8	3.3	3.6	2.2	2.0	1.4	1.2	0.4	0.6	0.4	0.1	0.2	0.1	0.1		87.5
伝染性紅斑 (定点当たり)	11	7	6	16	6	4	9	3	11	9	7	9	5	7	10	10	16	14	20	24	25	22	20	29	36	11	457
	0.3	0.2	0.2	0.4	0.2	0.1	0.2	0.1	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.5	0.6	0.7	0.6	0.5	0.8	1.0	0.3	12.4
突発性発疹 (定点当たり)	25	30	19	39	30	22	45	30	28	38	32	17	28	20	19	29	18	26	21	32	27	25	22	18	12	7	1,324
	0.7	0.8	0.5	1.1	0.8	0.6	1.2	0.8	0.8	1.0	0.9	0.5	0.8	0.5	0.5	0.8	0.5	0.7	0.6	0.9	0.7	0.7	0.6	0.5	0.3	0.2	35.8
百日咳 (定点当たり)	1	1	2				1	1	1	1	1																21
	0.0	0.0	0.1				0.0															0.1					0.6
ヘルパンギーナ (定点当たり)	285	264	164	158	118	76	65	48	47	30	22	13	12	9	2	1	3	1		1		3	1				2,353
	7.7	7.1	4.4	4.3	3.2	2.1	1.8	1.3	1.3	0.8	0.6	0.4	0.3	0.2	0.1	0.0	0.1	0.0		0.0		0.1	0.0				63.6
流行性耳下腺炎 (定点当たり)	12	16	15	13	11	12	10	12	14	10	28	11	20	18	8	20	14	13	25	9	16	14	18	18	12	11	734
	0.3	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.8	0.3	0.5	0.5	0.2	0.5	0.4	0.4	0.7	0.2	0.4	0.4	0.5	0.5	0.3	0.3	19.8

表5 定点把握五類感染症 週別患者報告数(続き)

疾患 \ 週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
急性出血性結膜炎 (定点当たり)																				1							
																				0.1							
流行性角結膜炎 (定点当たり)	1	21	12	8	7	18	21	14	22	22	17	7	11	14	14	17	7	14	7	7	9	11	5	10	10	13	13
	0.1	2.6	1.5	1.0	0.9	2.3	2.6	1.8	2.8	2.8	2.1	0.9	1.4	1.8	1.8	2.1	0.9	1.8	0.9	0.9	1.1	1.4	0.6	1.3	1.3	1.6	1.6
ロタウイルス胃腸炎 (定点当たり)				1		1	1	2		1				2				3					1	2	1		1
				0.2		0.2	0.2	0.3		0.2				0.3				0.5					0.2	0.3	0.2		0.2
細菌性髄膜炎(真菌性を含む) (定点当たり)			1																								
			0.2																								
無菌性髄膜炎 (定点当たり)																		1		1							
																		0.2		0.2							
マイコプラズマ肺炎 (定点当たり)										1		1		1									2			1	2
										0.2		0.2		0.2									0.3			0.2	0.3
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)																											

疾患 \ 週	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	合計
急性出血性結膜炎 (定点当たり)																	1										2
																	0.1										0.3
流行性角結膜炎 (定点当たり)	11	11	10	10	9	11	18	12	14	18	10	7	8	18	25	28	25	9	15	24	13	20	23	12	10	6	709
	1.4	1.4	1.3	1.3	1.1	1.4	2.3	1.5	1.8	2.3	1.3	0.9	1.0	2.3	3.1	3.5	3.1	1.1	1.9	3.0	1.6	2.5	2.9	1.5	1.3	0.8	88.6
ロタウイルス胃腸炎 (定点当たり)																							1				17
																								0.2			2.8
細菌性髄膜炎(真菌性を含む) (定点当たり)								1														1					3
								0.2														0.2					0.5
無菌性髄膜炎 (定点当たり)				1																							3
				0.2																							0.5
マイコプラズマ肺炎 (定点当たり)	1				1		2		3		2			2	9	2	2	2	2	1		2	2	1	5	45	
	0.2				0.2		0.3		0.5		0.3			0.3	1.5	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2		0.3	0.3	0.2	0.8	7.5	
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)																											0
																											0.0

表6 定点把握五類感染症 月別患者報告数

疾患 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
性器クラミジア感染症 (定点当たり)	9	9	6	11	10	10	11	9	8	5	10	7	105
	0.8	0.8	0.5	1.0	0.9	0.9	1.0	0.8	0.7	0.5	0.9	0.6	9.5
性器ヘルペスウイルス感染症 (定点当たり)	2	1	4	4	5	3	4	1	2	3	3	2	34
	0.2	0.1	0.4	0.4	0.5	0.3	0.4	0.1	0.2	0.3	0.3	0.2	3.1
尖圭コンジローマ (定点当たり)	2		2	2	2	3	2	2				1	18
	0.2		0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2				0.1	1.6
淋菌感染症 (定点当たり)	9	5	6	1	2	4	4	3	5	5	3	5	52
	0.8	0.5	0.5	0.1	0.2	0.4	0.4	0.3	0.5	0.5	0.3	0.5	4.7
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (定点当たり)	5	12	15	17	14	10	7	15	12	9	13	16	145
	0.8	2.0	2.5	2.8	2.3	1.7	1.2	2.5	2.0	1.5	2.2	2.7	24.2
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (定点当たり)													0
													0.0
薬剤耐性緑膿菌感染症 (定点当たり)								1		1	1		3
								0.2		0.2	0.2		0.5

イ 月報対象疾患(7 疾患)

定点からの月別患者報告数を表 6 に示した。

性器クラミジア感染症の報告数は 105 人(定点当たり 9.6 人)で例年の 0.8 倍であった。性別は男性 64 人, 女性 41 人であった。

性器ヘルペスウイルス感染症の報告数は 34 人(定点当たり 3.1 人)で例年の 0.6 倍であった。性別は男性 31 人, 女性 3 人であった。

尖圭コンジローマの報告数は 18 人(定点当たり 1.6 人)で例年の 0.6 倍であった。性別は男性 15 人, 女性 3 人であった。

淋菌感染症の報告数は 52 人(定点当たり 4.7 人)で例年の 0.7 倍であった。性別は男性 44 人, 女性 8 人であった。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告数は 145 人(定点当たり 24.2 人)で例年の 1.0 倍であった。性別は, 男性 83 人, 女性 62 人であった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はなかった。

薬剤耐性緑膿菌感染症の報告数は 3 人(定点当たり 0.5 人)で例年の 0.6 倍であった。

(3) 結核

〔「結核登録者情報システム」における集計内容を示す。〕

結核患者発生状況(新登録患者)を表 7 に示した。

平成 27 年の結核新登録患者数は 167 人で, 前年の 188 人から 21 人減少した。罹患率(人口 10 万対率)は 12.1 で, 前年の 13.5 から 1.4 減少した。新登録患者のうち, 排菌により感染拡大の危険が高い喀痰塗沫陽性肺結核の患者数は 63 人で, 前年の 69 人から 6 人減少, 罹患率は 4.5 で, 前年の 4.9 から 0.4 減少した。新登録肺結核患者に占める喀痰塗沫陽性者は 53.8%(前年 48.3%)であった。新登録患者のうち 70 歳以上の高齢結核患者は 120 人(前年比 14 人減)で, 全体の 71.9%(前年比 0.6 ポイント増)を占めた。年齢階級別の罹患率は例年と同様の傾向を示した。保健所別の罹患率を比較すると, 高い順に, 四国中央保健所 19.4(前年比 1.2 増), 八幡浜保健所 18.7(前年比 1.7 増), 宇和島保健所 17.5(前年比 1.4 減), 今治保健所 12.7(前年比 1.3 増), 西条保健所 10.5(前年比 3.5 減), 松山市保健所 9.3(前年比 1.9 減), 中予保健所 7.6(前年比 4.5 減)であった。前年と比較すると, 四国中央保健所, 今治保健所, 八幡浜保健所で増加し, 西条保健所, 松山市保健所, 中予保健所, 宇和島保健所では減少した。

表7 結核発生状況(新登録患者)

		活動性結核					潜在性結核感染症 (別掲)
		総数	肺結核活動性			肺外結核活動性	
			喀痰塗沫陽性	その他の結核菌陽性	菌陰性・その他		
保 健 所 別	四国中央	17	7	2	2	6	治療中
	西条	24	14	2		8	
	今治	21	10	7	1	3	
	松山市	48	12	8	3	25	
	中予	10	5	3		2	
	八幡浜 宇和島	27 20	5 10	16 8	2	4 2	
愛媛県 合計		167	63	46	8	50	42
年 齢 別	0-4						6
	5-9						2
	10-14						
	15-19	1				1	1
	20-29	5	2	2	1		2
	30-39	4	2	2			6
	40-49	8	4	2	1	1	7
	50-59	11	3	5		3	9
	60-69	18	4	6	2	6	4
70-	120	48	29	4	39	5	

\* 潜在性結核感染症: 結核の無症状病原体保有者のうち医療を必要とするもの

## 2 細菌検査状況

感染症の病原体に関する情報を収集するため、愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領に基づき、病原体検査を実施した。

### (1) 全数把握対象感染症

#### ア 細菌性赤痢

県内で細菌性赤痢患者の届出があった場合には、当所で患者から分離された菌株の確認検査を実施するとともに、国立感染症研究所に菌株を送付している。国立感染症研究所ではパルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)法による型別を実施し、ソンネについては Multi-locus variable-number tandem repeat analysis (MLVA) を実施している。当所では赤痢菌の血清型別試験、細胞侵入性遺伝子(*invE*, *ipaH*)のPCR検査、薬剤感受性試験を実施している。薬剤感受性試験はCLSIの抗菌薬ディスク感受性試験実施基準に基づき、セフトキシム(CTX)、セフトジジム(CAZ)、イミペネム(IPM)、メロペネム(MEPM)、アズトレオナム(AZT)、セフェピム(CFPM)、ピペラシリン(PIPC)アミカシン(AMK)、シプロフロキサシン(CPFX)、ミノサイクリン(MINO)、セフメタゾール(CMZ)スルファキサゾール(Su)の12薬剤に対する耐性の有無を判定している。

県内で届出のあった細菌性赤痢患者1名から分離された赤痢菌は、ソンネI相で、*invE*, *ipaH* 遺伝子の保有が確認された。薬剤感受性試験の結果、CPFXに耐性を示した。また、MLVA型はSsV15-052であり他県に一致する株はなかった(表8)。

#### イ 腸管出血性大腸菌感染症

県内で腸管出血性大腸菌(EHEC)感染症患者及び無症状病原体保有者の届出があった場合には、当所で分離された菌株について確認検査を実施するとともに、国立感染症研究所に菌株を送付している。国立感染症研究所ではEHEC O157, O26, O111についてはMLVA法による型別を実施し、その他のEHECについてはPFGE法

による型別を実施し、全国規模の同時多発的な集団発生“diffuse outbreak(散在的集団発生)”を監視している。当所では、分離株の生化学的性状、O抗原及びH抗原の血清型別、ベロ毒素(VT)の型別、薬剤感受性試験に加え、PFGE法及びEHEC O157, O26, O111についてはMLVA法を実施し、EHEC O157については迅速に検査可能であるIS(Insertion Sequence)-Printing System(東洋紡)を実施している。薬剤感受性試験はCLSIの抗菌薬ディスク感受性試験実施基準に基づき、CTX, CAZ, IPM, MEPM, AZT, CFPM, PIPC, AMK, CPFX, MINO, CMZ, Suの12薬剤に対する耐性の有無を判定している。

県内で届出のあったEHEC感染症患者及び無症状病原体保有者10名から分離されたEHECについて解析を行った(表9)。分離株のO血清型別はO26が3株、O157が5株、O145が2株であった。H型別及びVT型別を併せた分類では、O26:H11 VT1が3株、O157:H7 VT1&2が4株、O157:H-VT1&2が1株、O145:H-VT2が2株であった。

事例1(患者感染者2名、O26:H11 VT1)は、家族内での発生であった。PFGE型(O26-15-01, O26-15-02)のPFGEパターンは2バンド違いであり、きわめて関連があると判断できる。国立感染症研究所が実施したMLVA型(15m2071)は同じパターンを示した。

事例3(患者感染者3名、O157:H7 VT1&2)は、家族内での発生であった。PFGE型(O157-15-02)及び国立感染症研究所が実施したMLVA型(15m0115)は同じパターンを示した。

事例4(患者感染者1名、O157:H-VT1&2)は、MLVA型が他県の菌株と一致したが疫学的な関連は見いだせなかった。

事例5(患者感染者2名、O145:H-VT2)は、家族内での発生であった。PFGE型(O145-15-01)は同じパターンを示した。

薬剤感受性試験の結果、10株は全ての薬剤に対して感受性であった。

表8 愛媛県における赤痢菌分離株(2015年)

診断月日	保健所名	感染地域	菌型(血清型)	<i>invE</i>	<i>ipaH</i>	耐性薬剤	MLVA型 <sup>1)</sup>
8/14	松山市	インド	<i>Shigella sonnei</i> I相	+	+	CPFX	SsV15-052

1) MLVA(Multilocus variable-number tandem-repeat analysis)は、ゲノム上に散在するリピート配列のリピート数の違いを基に菌株を型別する方法。国立感染症研究所によって付与されたMLVA型。



表 9 愛媛県における腸管出血性大腸菌感染症分離株(2015 年)

事例番号	診断月日	保健所名	疫学情報	患者感染者数 (無症状者再掲)	血清型		VT 型別	病原因子	耐性薬剤	PFGE 型 <sup>1)</sup>	MLVA 型 <sup>2)</sup>	IS コード <sup>3)</sup>	分離株数
					O	H							
1	5/16 ~5/25	宇和島	家族内	2 (1)	26	11	1	eaeA	-	O26-15-01	15m2071		1
										O26-15-02	15m2071		1
2	6/17	中予	散発	1	157	7	1,2	eaeA	-	O157-15-01	15m0114	757554-611657	1
3	7/10 ~7/12	今治	家族内	3 (2)	157	7	1,2	eaeA	-	O157-15-02	15m0115	317577-431756	3
4	7/18	宇和島	散発	1	157	-	1,2	eaeA	-	O157-15-03	15m0061	615457-521656	1
5	10/18 ~10/23	今治	家族内	2 (1)	145	-	2	eaeA	-	O145-15-01			2
6	12/1	宇和島	散発	1	26	11	1	eaeA	-	O26-15-03	15m2158	615457-521656	1
計				10 (4)									10

1) PFGE 型：バンドが 1 本でも異なれば、違ったサブタイプ名となる。

2) MLVA(Multilocus variable-number tandem-repeat analysis)は、ゲノム上に散在するリピート配列のリピート数の違いを基に菌株を型別する方法。国立感染症研究所によって付与された MLVA 型。同一の MLVA 型は同一の名前で表記し、分離年, m, 番号で示し, SLV (single locus variant)の関係にある MLVA 型については分離年, c, 番号となる。

3) IS(Insertion sequence:大腸菌ゲノムの内部を移動する配列)と 4 種の病原因子の有無を、マルチプレックス PCR で検出することにより、菌のタイピングを行う検査法である。

## ウ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

県内で劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者の届出があった場合には、当所で患者から分離された菌株について Lancefield の分類により群別を行い、A 群溶血性レンサ球菌については T 血清型別を実施し、B 群溶血性レンサ球菌については血清型別を実施し、国立感染症研究所に菌株を送付している。国立感染症研究所では、A 群溶血性レンサ球菌については、M 血清型別及び *emm* 遺伝子型、発熱毒素遺伝子の検査を実施し、C 群・G 群溶血性レンサ球菌については *emm* 遺伝子型別を実施している。

県内で届出のあった劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者 12 名の患者から分離された溶血性レンサ球菌について解析を行った。分離株は A 群溶血性レンサ球菌 4 株、B 群溶血性レンサ球菌 2 株、C 群溶血性レンサ球菌 1 株、G 群溶血性レンサ球菌 5 株であった。A 群溶血性レンサ球菌については T12M12, *emm12.7*, *speB*, *speF* 陽性, *speA*, *speC* 陰性が 1 株、T11M 型別不能, *emm11.0*, *speB*, *speC*, *speF* 陽性, *speA* 陰性が 1 株、T3M3, *emm3.95*, *speA*, *speB*, *speF* 陽性 *speC* 陰性が 1 株、T1M1, *emm1.0* *speA*, *speB*, *speF* 陽性, *speC* 陰性が 1 株であった。B 群

溶血性レンサ球菌 2 株は血清型別 V 型であった。C 群溶血性レンサ球菌 1 株の *emm* 遺伝子型は *stC1400.11* であった。G 群溶血性レンサ球菌 5 株の *emm* 遺伝子型は *stG245.0*, *stG10.0*, *stG6792.3*, *stG653.0*, *stC74a.0* であった(表 10)。

## (2) 定点把握対象感染症

### ア 感染性胃腸炎

検査対象病原体は主として赤痢菌、病原大腸菌、サルモネラ属菌、病原性ビブリオ、カンピロバクター及びセレウス菌とし、通常 5 種類の選択分離培地上に発育した典型的な集落を釣菌し、生化学的性状試験及び血清学的試験により同定している。

大腸菌は市販免疫血清で血清型別を実施すると共に、11 種類(*eaeA*, *astA*, *aggR*, *bfpA*, *invE*, *elt*, *esth*, *ipaH*, EAF, CVD432, *stx*) の病原因子関連遺伝子の有無を PCR 法で確認し、腸管出血性大腸菌(EHEC)、腸管侵入性大腸菌(EIEC)、腸管毒素原性大腸菌(ETEC)、腸管病原性大腸菌(EPEC)及び腸管凝集付着性大腸菌(EAggEC)に分類した。

小児を中心に 413 検体の糞便について病原菌検索を行

なった。その結果、病原大腸菌 25 株、サルモネラ属菌 2 株、カンピロバクター4 株の計 31 株が分離された。年間の病原細菌検出率は 7.5% (31/413) であった。(表 11, 表 12)

カンピロバクターはすべて *Campylobacter jejuni* であり、Penner の耐熱性抗原による血清型別は D 群が 1 株、型別不能が 3 株であった。

大腸菌は、PCR の結果、腸管病原性大腸菌 (EPEC) の

7 株が *eaeA* 陽性、2 株が *eaeA*, *astA* 陽性であった。腸管凝集付着性大腸菌 (EAggEC) の 13 株が *aggR*, CVD432 陽性、3 株が *aggR*, CVD432, *astA* 陽性であった。

サルモネラ属菌は、*S. Enteritidis* が 1 株、*S. Thompson* が 1 株であった。

その他、セレウス菌、赤痢菌、病原性ビブリオ等は分離されなかった。

表 10 愛媛県における劇症型溶血性レンサ球菌感染症分離株 (2015 年)

診断月日	保健所名	菌種	血清型	<i>emm</i> 遺伝子型別	発熱毒素遺伝子
1/23	松山市	B 群溶血性レンサ球菌	V		
2/1	中予	A 群溶血性レンサ球菌	T12M12	<i>emm12.7</i>	<i>speB</i> , <i>speF</i> 陽性 <i>speA</i> , <i>speC</i> 陰性
3/11	宇和島	G 群溶血性レンサ球菌		<i>stG245.0</i>	
3/16	西条	A 群溶血性レンサ球菌	T11M 型別不能	<i>emm11.0</i>	<i>speB</i> , <i>speC</i> , <i>speF</i> 陽性 <i>speA</i> 陰性
4/13	宇和島	A 群溶血性レンサ球菌	T3M3	<i>emm3.95</i>	<i>speA</i> , <i>speB</i> , <i>speF</i> 陽性 <i>speC</i> 陰性
4/17	宇和島	G 群溶血性レンサ球菌		<i>stG10.0</i>	
7/7	宇和島	G 群溶血性レンサ球菌		<i>stG6792.3</i>	
8/13	八幡浜	C 群溶血性レンサ球菌		<i>stC1400.11</i>	
8/14	松山市	G 群溶血性レンサ球菌		<i>stG653.0</i>	
9/28	松山市	A 群溶血性レンサ球菌	T1M1	<i>emm1.0</i>	<i>speA</i> , <i>speB</i> , <i>speF</i> 陽性 <i>speC</i> 陰性
10/29	松山市	B 群溶血性レンサ球菌	V		
11/25	西条	G 群溶血性レンサ球菌		<i>stC74a.0</i>	

表 11 愛媛県における感染性胃腸炎患者からの病原細菌検出状況(年別)

病原細菌		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	
病原大腸菌	腸管毒素原性大腸菌		2	2			
	OUT				1		
	腸管病原性大腸菌	O8					
		O20			1		
		O26					1
		O55	1				1
		O63		1	1		
		O86a		1			
		O103		1			1
		O121		1			
		O128	2		2	1	1
		O145	1	2			
	O153		1	1			
	O UT	10	6	13	10	5	
	腸管凝集付着性大腸菌	O78	1		2		
O86a		1		3			
O111		1	1			7	
O126		2	6	6		3	
O127a		1	4	6			
O UT		5	2	9	1	6	
小計	25	28	46	13	25		
<i>Campylobacter jejuni</i>		6	2	1		4	
<i>Salmonella</i> Schwarzengrund (O4)		1					
<i>Salmonella</i> Thompson (O7)			1	1		1	
<i>Salmonella</i> Manhattan (O8)			1				
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9)		5	2		2	1	
<i>Bacillus cereus</i>		1			1		
計		38	34	48	16	31	
検出数/検体数(%)		(9.7)	(6.4)	(9.4)	(4.1)	(7.5)	
検査検体数		391	531	510	392	413	

表 12 愛媛県における感染性胃腸炎患者からの病原細菌検出状況(2015年)

病原細菌		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
腸管病原性大腸菌	O26								1					1
	O55											1		1
	O103							1						1
	O128							1						1
	O UT						2		1	2				5
	小計						2	2	2	2			1	9
腸管凝集付着性大腸菌	O111		2				3	1			1			7
	O126		1									1	1	3
	O UT	2				1		1		1			1	6
	小計	2	3			1	3	2		1	1	1	2	16
<i>Campylobacter jejuni</i>	D										1			1
	UT											2	1	3
	小計										1	2	1	4
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9)						1								1
<i>Salmonella</i> Thompson (O7)							1							1
計		2	3	0	0	2	6	4	2	3	2	4	3	31
検出数/検体数(%)		(8.3)	(10.3)			(5.7)	(9.7)	(9.1)	(5.3)	(14.3)	(9.1)	(16.0)	(7.7)	(7.5)
検査検体数		24	29	30	44	35	62	44	38	21	22	25	39	413

### 3 ウイルス検査状況

#### (1) 全数把握対象感染症

保健所から依頼を受けた検体について遺伝子増幅法によるウイルス検査を実施し、必要に応じて国立感染症研究所へ確認検査を依頼した。月別のウイルス検出状況について表 13 に示した。

- ・重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

SFTS 疑い患者検体 19 例から検出されたウイルスは 1 例(検出率 5.3%)であった。

- ・A 型肝炎

A 型肝炎患者検体 4 例から A 型肝炎ウイルスが 2 例検出された。

- ・風しん

風しん疑い患者 1 名から採取された咽頭ぬぐい液及び尿からは風しんウイルスは検出されなかった。

- ・麻疹

麻疹疑い患者 1 名から採取された咽頭ぬぐい液及び尿からは麻疹ウイルスは検出されなかった。

- ・デング熱

デング熱疑い患者検体 1 例からデング熱ウイルスは検出されなかった。

- ・中東呼吸器症候群(MERS)

MERS 疑い患者検体 1 例から MERS ウイルスは検出されなかった。

#### (2) 定点把握対象感染症

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱に定められた指定届出機関のうち、病原体定点等の医療機関において、ウイルス検査対象疾患、呼吸器感染症及び発疹症等から採取された検体についてウイルス学的検査を実施した。呼吸器感染症等患者検体からのウイルス分離には FL, RD-18s, Vero 細胞を常用し、インフルエンザ流行期には MDCK 細胞を併用した。また必要に応じて PCR 法, リア

ルタイム PCR 法及びイムノクロマト(IC)法を実施した。感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検索には、電子顕微鏡法, PCR 法, リアルタイム PCR 法及び IC 法を用いた。

呼吸器感染症等患者検体 252 例から検出されたウイルスは 135 例(2 種類の病原体が検出された重複感染例 3 例)(検出率 52.4%)、感染性胃腸炎患者検体 388 例から検出されたウイルスは 200 例(重複感染例 16 例うち 2 種類の病原体が検出されたのが 16 例, 3 種類以上の病原体が検出されたのが 2 例)(検出率 46.9%)であった。

呼吸器感染症等患者検体からの月別ウイルス検出状況を表 14 に、感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況を表 15 に示した。

インフルエンザウイルスは、AH3 が 1 月～3 月と 7 月に計 29 例検出された。本年の流行シーズン(2014/2015 シーズン)は、AH3 による流行であり、他の血清型は検出されなかった。

エンテロウイルスは、毎年夏季に流行がみられ、本年も 6～7 月を中心に検出された。コクサッキーウイルス A(CA) 6 型が 23 例と最も多かった。次いで多かったのがライノウイルスであり、21 例検出された。CA6 型とライノウイルスが、検出されたエンテロウイルスの 55.7%を占めた。

アデノウイルス(Ad)は、1 型が 2 例, 2 型が 5 例, 3 型が 2 例, 4 型が 5 例, 54 型が 7 例, 56 型が 2 例, 型別不明が 1 例検出された。Ad は、主に流行性角結膜炎患者検体から検出された。

感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況は、ノロウイルス(NoV)が 106 例(GI:40 例, GII:66 例)と検出割合が最も多く(検出率 53.0%)、次いでサポウイルス(SaV) 48 例(24.0%)、ロタウイルス 22 例(11.0%)、アストロウイルス 18 例(9.0%)、Ad 6 例(3.0%)であった。今年 NoV GI の検出数が例年と比較して多く、5 月～8 月に多く検出された。

表 13 全数把握対象感染症疑い患者検体からの月別ウイルス検出状況

ウイルス名	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
SFTS				1									1
A 型肝炎			1								1		2

表 14 呼吸器感染症等患者検体からの月別ウイルス検出状況

ウイルス型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
コクサッキーA群	6型				3	2	8	5	2	2	1		23
	9型						1	1			1		3
	10型				2	2	7	6					17
	16型	1			1		5	1		1			9
コクサッキーB群	4型			1			1						2
	5型						1						1
エコー	18型										1		1
	25型							1	1				2
ライノ					2	4	6	4	2	2	1		21
インフルエンザ	AH3	16	8	4			1						29
RS									1		1		2
単純ヘルペス	1型								1				1
アデノ	1型			1								1	2
	2型	3	1					1					5
	3型					1						1	2
	4型	2				1		2					5
	54型						1			4	2		7
	56型							1		1			2
	型別不明			1									1
合計	22	9	7	3	7	20	26	15	8	9	7	2	135
検査数	33	22	14	10	13	34	39	24	15	17	14	17	252

表 15 感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
NoV G I		1		1	4	18	7	7		1	1		40
NoV G II	6	10	15	5	1		1				5	23	66
SaV		1	5	4	5	20	10		1		1	1	48
ロタ		1		8	2	2				5		4	22
アストロ				2	2	8	4	2					18
アデノ			2		1	2	1						6
合計	6	13	22	20	15	50	23	9	1	6	7	28	200
検体数	22	23	29	40	33	63	43	35	19	20	24	37	388